

のひろば

励みあう仲間

上分リハビリ友の会



「脳卒中でおれ、病院から退院したが、家で寝たり起きたりの生活をしている。そんな方はいませんか。」

なることではなく、障害を持ちながらも積極的に生きていこうとする姿勢である。

上分地区内でさまざまな障害を持ちながら、がんばっているという仲間が集まり「上分リハビリ友の会」を結成している。

この会は、昭和五十七年二月、高橋貞子元保健婦の呼びかけて青木俊太郎会長ほか六人で発足し、現在は、八人の仲間が毎週木曜日に上分公民館に集まり機能訓練や体操をおこなっている。毎週集まることに仲間は明るくなり、身体の調子もよくなったと喜んでいる。

このリハビリ友の会に、三月二十四日嬉しい仲間の訪れがあった。伊野町リハビリ友の会の会員たちである。同会は、十年前から活動し、今では海外からも見学、研修に訪れているとのことである。

さっそく仲間同志の練習方法を教え合ったり、体験発表をし合つて意義ある交流会をもち、互いに励まし合い再会時には「もつとよくなつて」と約束し合っていた。

こうした同じ悩みを持つ仲間同志が輪を広げ、お互いに助け合いながら、がんばってほしいものである。

吾桑バイパスが開通

三代夫婦先頭に地元民ら通りぞめ



4月2日開通した「吾桑バイパス・吾桑トンネル」

現道の区間には、両わきに民家や吾桑小学校などが建ち並んでおり、県道須崎―佐川線との交差点でもあり朝夕のラッシュ時には、たびたび車の渋滞をきたしていましたが、同バイパスの開通で千々川と尾殿間はほぼ直線で結ばれたことから車の流れはスムーズになりました。

開通式では中内知事、谷市長らが紅白のテープにはさみを入れ、朝ヶ丘中学校のプラスチックバンド部員の演奏する中、地元の堅田正義さ



開通を祝って知事、市長らによるテープカット

交通のネックを解消しようと、建設省が昭和五十四年度から進めていた一般国道五六号線「吾桑バイパス」が完成し、四月二日現地で地元民、中内知事、谷市長ら約二百人が出席して盛大に開通式が行われました。

吾桑バイパスは千々川と尾殿間を結ぶ総延長一、三二〇メートル、幅員二二メートルの二車線で吾桑駅の真下を横切っており、千々川から吾桑駅下までは長さ五九八メートルの吾桑トンネル、尾殿側は二二九メートルの桜川橋と取り付け道路で五六号線に接続されており現道よりも四〇〇メートルも短縮されました。

ん（八十七歳）、笑衛さん（八十七歳）夫婦ら二組の三代夫婦を先頭に約二百人が徒歩や車で通り初めをして吾桑バイパスの開通を祝いました。

米・ペットフード

武内米穀店

青木町2-2
TEL 2-0526

暁峰館

暁峰館文化教室 各種催ものに御利用下さい。

毎週 困 和紙人形 } 生徒募集中
 匳 着物着付 }

東古市町1-19 TEL 3-2020